

Contents

特集：米大統領選挙とシュワちゃん効果	1p
< 今週の”The Economist”から >	
”About those election promises” 「シュワちゃんの公約」	8p
< From the Editor > 「デービス知事の反撃」	9p

特集：米大統領選挙とシュワちゃん効果

日本は今週から総選挙に入りましたが、米国の大統領選挙も投票日の来年11月2日まで残り1年というところまで来ています。米大統領選挙が大好きな本誌としては、この辺で最新情勢の整理を試みてみたいとなりました。

現時点のポイントは3つあります。 民主党の候補者の中で誰が生き残るのか。 ブッシュの支持率は持つのか、持たないのか。 そして、 シュワルツネッカー新カリフォルニア州知事誕生のインパクトがどう出るか、 の3点です。特に最後の点は、冗談話だと思われるようですが、あっと驚くワイルドカードかもしれません。

民主党候補者のマッチレース

今週号では、Gallup社の世論調査をもとに最新情勢をお伝えしたい。まず民主党の候補者10人のダンゴレースは、「2強、3弱、4番外地、1脱落者」という情勢である。

- ・「2強」は、ディーン元ヴァーモント州知事と、先月になって参入したクラーク元NATO司令官。いずれもアウトサイダー的なところが「売り」である。
- ・「3弱」は、ベテラン議員たちで、ゲッパート下院議員、リーバーマン上院議員、ケリー上院議員である。本来であれば先頭を走っていてもおかしくない顔ぶれだが、彼らが伸び悩んでいるところが今回の特徴である。候補者は、以上5人の中でほぼ決まりであろう。
- ・「4番外地」は、エドワーズ上院議員、シャープトン師、モーズリーブラウン元上院議員、クニシッチ下院議員である。出だしは好調だったが、ここへ来て失速気味のエドワーズ上院議員

は撤退宣言が近そうだ。残りの3人は、候補者になりたいというよりも、「言いたいことがあるから出ている」人たちなので、もう少し粘るだろう。

- ・「1脱落者」は、10月6日に戦線離脱を宣言したグラハム上院議員。

さて、彼らの支持率の現状をGallup社のデータで見てみよう¹。(あいにくだが、「4番外地」と「1脱落者」にはご遠慮いただいた)。

	Dean	Clark	Gephard	Lieberman	Kerry	None
10/24-26	16	15	12	12	10	18
10/10-12	13	18	10	13	11	15
10/6-8	16	21	8	13	13	15
9/19-21	13	22	11	10	11	16
9/8-10	14	10	16	13	12	17
8/25-26	12	2	13	23	10	21

かねてから出馬を噂されていたクラーク将軍が正式出馬表明するや、いきなり22%とトップに踊り出た。しかるにその後の勢いは衰え気味で、現在ではディーン元知事がトップを切っている。そこから少し遅れてゲッパート下院議員、リーバーマン上院議員、ケリー上院議員の「3弱」候補が続く。

この順位は他の世論調査でも大差はなく、ほぼ信用してよさそうだ。

		Dean	Clark	Gephard	Lieberman	Kerry
Newsweek	10/23-24	15	12	8	10	8
Zogby	10/15-18	12	10	5	8	9
Fox News	10/14-15	12	13	9	11	10
ABC news/W.Post	10/9-13	16	13	14	10	11

民主党、消耗戦の悩み

こういうマッチレースが有権者の関心を高め、政策論争を喚起するようなら民主党としては願ったりの展開といえる。しかるに以下のように悩みは尽きないのが現状である。

民主党の5つの悩み

Who? : 誰で勝つのか。「2強」のうちディーンはリベラル過ぎ、本選挙での勝ち目が薄い。クラークの政治的力量は未知数。そして「3弱」はベテラン政治家というイメージがマイナスに働いている。

When? : 時間が味方するかどうか。米国経済の第3四半期GDPは年率換算で前期比7.2%の高成長。FRB、IMF、OECDなどは、2004年の成長率を3%台後半から4%

¹ “Clark Slips, Now Tied With Dean for First Place” (October 28,2003)

台と見込んでいる。景気が回復すれば勝ち目は薄くなる。また、イラク情勢は混沌としているが、これもさすがに来年には安定しているかもしれない。

Where? : どの州を取れば勝ち目が出てくるのか(後述)。

What? : テロとの戦争における態度表明。イラク問題でブッシュを批判することはやさしくても、骨太な代案を出せるかどうか。「自制」「多国間」「ソフトパワー」あたりがキーワードになりそうだが、それだとパウエル国務長官の持論と大差はなく、民主党の独自色を出すという感じでもない。

How Much? : 選挙資金は足りるのか。

特に最後の選挙資金は現実的な問題である。以下は各候補の選挙資金における「受取額」「支出額」「手持ち額」をまとめたもの(10月15日時点)。民主党の候補者は、全員合わせればブッシュ大統領とほぼ同じくらいの選挙資金を受け取っているのだが、すでに半分以上は支出してしまっており、**手持ち資金量はかならずしも潤沢とはいえない**。

各候補者の選挙資金状況²

	Receipt	Spending	Cash on hand
George W Bush (R)	\$84,583,768	\$14,955,838	\$73,477,496
Howard Dean (D)	\$25,387,493	\$12,951,593	\$12,435,901
John Kerry (D)	\$20,043,631	\$12,098,642	\$7,944,988
John Edwards (D)	\$14,510,398	\$9,701,717	\$4,808,680
Dick Gephardt (D)	\$13,666,915	\$7,782,314	\$5,884,600
Joe Lieberman (D)	\$11,779,353	\$7,696,772	\$4,082,580
Wesley Clark (D)	\$3,491,108	\$107,259	\$3,383,848
Dennis Kucinich (D)	\$3,399,709	\$2,614,238	\$785,471
Carol Moseley Braun (D)	\$342,518	\$313,240	\$29,278
Al Sharpton (D)	\$283,529	\$259,458	\$24,070

これに対し、予備選で苦勞をする必要がないブッシュ大統領は、7300万ドルを手元に残しているのが強みである。**2004年選挙では、ブッシュ陣営は2億ドルを集める予定だが、すでにその4割以上は達成されている**。このまま大勢の候補者の間で消耗戦が続くようだと、彼の資金量の差はますます拡大していく。

来年1月19日はアイオワ州コーカス、1月27日はニューハンプシャー州プライマリーとなり、予備選挙も本番を迎える。そして3月2日のスーパーチューズデーでほぼ決着するだろう。つまり向こう3ヶ月から4ヶ月が勝負どころである。民主党としては、できれば仲間内の戦いで疲弊したくないところだが、「2強」と「3弱」の戦いはまだまだ続きそうだ。

² <http://www.opensecrets.org/presidential/index.asp>

ブッシュ支持率の謎

守る共和党側に目を転じてみよう。

最も重要なデータはブッシュ大統領の支持率である。ブッシュ支持率は9月末に就任以来最低の50%まで落ち、10月上旬には少し回復して最新データは53%である。これは再選されるには十分な数字である。もっとも、選挙まで残り1年という状況を勘案すると、この支持率が上昇トレンドなのか下降トレンドなのかが問題。10月上旬の反発が「底打ち」なのか、「一時的な現象」なのか、その点が注目されるのは言うまでもない。次回の結果が気になるところである。

Gallup社では、このブッシュ支持率について興味深い点を発見している³。同社は大統領の人気を調査する際に、「支持率」(Job Approving Rating)と「好感度」(Favorable Rating)の2つを使っている。前者の設問は、「あなたは現大統領の仕事の仕方に賛成ですか、反対ですか？」であり、後者の設問は「あなたは現大統領を好きか、そうでないかを教えてください」となっている。

これで見ると、10月6～8日時点のブッシュ支持率は55%だが、好感度は60%ある。就任以来の平均値を取ると、支持率65.6%、好感度69.6%と、概ね後者が4ポイント程度前者を上回っている。つまり、米国民は大統領としての仕事ぶりはさておいて、ブッシュ個人のことはそう嫌いではないということになる。

これを前任者クリントン大統領と比較すると面白い。1期目には同様な現象が見られ、1993～1996年の平均支持率が49.8%に対し、好感度は56.5%あった。ところが1998年1月を境に両者の数値は逆転する。そう、あのモニカ・ルインスキー事件を境に、クリントンは「支持率は高いが、好感度は低い」という大統領になってしまうのである。なんと2000年夏には、支持率62%、好感度48%という奇妙な数字を記録している。

話を戻して、今後のブッシュ支持率は経済状況とイラク情勢という2つの要素に大きく左右されることだろう。Gallupの調査によれば、4～5割の人々が「経済問題が最も重要」と認識しており、今の米国経済が「良い」と回答している人は26%しかない。それゆえに、今後の景気と雇用の回復が重要な鍵を握っている。イラク戦争については、54%が賛成、43%が反対と分かれている。3～4月には7割が賛成だったことを考えると、今後の復興と安定が重要であることは言を待たないだろう。

その一方で、ジョージ・ブッシュという人間が「個人として好かれている」という事実は、ご本人にとって貴重な政治的資産といえよう。

「シュワちゃん」知事の衝撃

³ “Bush’s Favorable Rating Higher Than Job Approval.” (October 28, 2003)

さて、これから先が問題のカリフォルニア州知事の件である。ご案内のとおり、10月7日にデービス知事に対するリコールが成立し、約130人の候補者の中から、実に48%という高い得票率でアーノルド・シュワルツネッガー氏が次期知事に当選した。選挙期間中は、「まるでサーカス」「カリフォルニア州は世界の笑いもの」と散々な評価を与えられていたが、結果が出てみると急に雰囲気が変わった。

これもGallup社の調査だが、「シュワルツネッガー氏はカリフォルニア州知事として成功するか」という設問に対し、「成功する」61%、「失敗する」34%という結果が出ている。共和党支持者の間では71対26という大差であり、民主党支持者でも54対40で肯定的な評価が出ている。さらに「シュワルツネッガー氏は既成の政治家と違う新しい手法を代表しているか」という設問に対しては、賛成65対反対31となっている。

「やはり米国は勝利者を称える国である」という文化論はさておくとして、意外なほどに高い評価を政治的にどう読み解くべきであろうか。

実はシュワルツネッガー氏の勝利には3つの意味があった。それは「共和党の勝利」「アウトサイダーの勝利」、そして「穏健派の勝利」という3点である。

カリフォルニア州を共和党が取る？

民主党の金城湯池であるカリフォルニア州で、共和党の知事が誕生したことのインパクトは大きい。なにしろシュワルツネッガー氏の48%のほかに、共和党本来の候補者であるマクリントック氏も13%を得票しているのである。併せて6割ということは、来年の大統領選挙においても同州が共和党に落ちる可能性が高まったことを意味する。

2004年の選挙人数 (Electoral College)



2000年の人口調査の結果、選挙人の数の調整が行われたので、カリフォルニア州の選挙人はさらに1人増えて55人となった。大統領選挙は全米538人の選挙人を「勝者総取り」

(winner-take-all)方式で奪い合い、270を越えた側が勝ちというゲームである。カリフォルニア州は全米の10%以上を占めるだけに、その動向は選挙の帰趨を大きく左右する。

ブッシュ陣営の腹積もりとしては、地元テキサスと弟がいるフロリダをしっかりと押さえ、共和党が地盤とする南部と西部の山岳州を固めれば150人くらいになる。あとは中西部が勝負どころなので、プレーリーの農業州に対しては補助金の大幅振り、五大湖沿岸の工業州には鉄鋼セーフガード、人民元の切り上げ圧力など、再選戦略のために露骨な手口を着々と打ってきた。しかしここへ来てカリフォルニア州が取れるのなら、一気に票読みは楽になった。10月中旬を境に、ブッシュ政権の「ドル安誘導」発言がピタリと止んだのは、このことと無関係ではないはずである。

これに対し、民主党は最低限カリフォルニア州、ニューヨーク州、それに北東部のリベラルな諸州を固めて100人くらいを確保することが基礎票となる。が、「シュワちゃん知事」の誕生は、この大前提をひっくり返す。差し引き110人分の票読みが狂ってしまったのだ。

民主党の選挙参謀にとっては文字通りの悪夢であろう。カリフォルニア州の55人を抜きにして民主党候補者が270人を上回るという算段は、本当に難しい。10月7日は、大統領選挙に対してきわめつけのワイルドカードをもたらしたのだ。

アウトサイダー知事の誕生

次にシュワルツネッガーの勝利は、「政界へアウトサイダーが乗り込む」という米国民好みのストーリーだった。ミネソタ州のベンチュラ知事に続く芸能人出身の首長誕生だが、これらは単なる「タレント候補」ではなく、既成の政治家への意義申立てという面を見落としてはならない。それくらい、選挙民の「反現職」「反既成政党」の感情は根強いものがある。

本来であれば、こういう傾向は野党である民主党側が追い風にしたいところである。ところがリコールされたのは民主党のデービス知事であり、これからシュワちゃんは民主党が多数派を占める州議会を相手にひと暴れすることになっている。これではまるで民主党 = 抵抗勢力であり、完全に悪役である。

それどころか、ホワイトハウスがシュワちゃんを追い風に使おうとしている。ブッシュ大統領は訪日の直前、カリフォルニア州で途中下車して祝福に駆けつけた。二人の握手の政治的な意味合いは大きい。新知事は州の窮状を救うためにホワイトハウスの助けが必要であり、ブッシュは選挙に勝つために人気者の新知事の応援が必要なのだ。

それまでブッシュ側には、考え方の近いマクリントック候補に対する遠慮があり、シュワルツネッガー側にはアウトサイダー候補としての都合があり、互いに接しないようにしていた。しかし勝ってしまえば、そんな配慮は不要となる。もとよりシュワちゃんは、ブッシュ父の時代によく「人寄せパンダ」の役を買って出ている。テレビを見ている国民は、両者が握手を交わしているのを見て、ああ、やっぱり仲が良かったんだなと思っただろう。ブッシュは思わぬところで援軍を得たわけである。

穏健派と保守派が手を結ぶ？

3番目にシュワルツネッガーは穏健派の共和党員であるという点にも注目したい。

現在のブッシュ政権を支えているのは、南部に中心を置く保守派の共和党である。宗教色が強く、家族の価値を重視し、中絶反対、銃規制反対のグループだ。もともとの共和党を築いた東部のお金持ちの国際派、いわゆるロックフェラー・リパブリカンたちは、最近ではマイノリティとなり、党内では力がない。2001年春には、その生き残りともいべきジェフオーズ上院議員が、「ブッシュ大統領の大型減税路線にはついていけない」と党籍を離脱した。そのくらい、南部の保守派優位が定着している。

これに対し、移民出身のシュワルツネッガーは穏健派である。中絶容認、ゲイの権利に寛大、環境保護に熱心、そして銃規制には賛成⁴である。昔は移民といえば即リベラル派という印象があったが、最近は勤勉なアジア系を中心に「移民の共和党員」が増えている。シュワちゃんも新しいタイプの共和党員なのである。

西部にはもともと「リバタリアン」と呼ばれる経済保守、社会リベラルの伝統がある。1964年の大統領選挙に出馬したバリー・ゴールドウォーター上院議員（アリゾナ州）が典型的だが、国家が市民生活に与える影響は最小限であるべきというのが、彼らの主張である。シュワルツネッガー新知事は、この西部共和党の伝統を継ぐことになる。

ブッシュとシュワルツネッガーの握手には、「保守派と穏健派の和解」という意味合いもある。社会政策に関する意見は違っても、両者は「小さな政府」という目的では一致できるからだ。このような穏健派が勢力を広げ、現ブッシュ政権を支える保守派と手を結べば、共和党の天下はますます強固になる。

このように、カリフォルニア州のリコールは、米国の政治情勢に地殻変動をもたらす事件だった可能性がある。大統領選挙の行方にも大きな影響を与えるだろう。

よく知られている通り、「候補者が南部出身のときの民主党は強い」というジンクスがある。クリントン（1992年、1996年 / アーカンソー）、カーター（1976年 / ジョージア）、ジョンソン（1964年 / テキサス）などであり、戦後の民主党出身大統領でこの法則に当てはまらないのはケネディ（1960年 / マサチューセッツ）だけだ。逆に共和党は、カリフォルニア州出身者が候補者になると強い。レーガン（1980年、1984年）とニクソン（1968年、1972年）である。再選を目指すブッシュ大統領が、カリフォルニア州に手がかりを得たことの意味は、いくら強調してもし過ぎることはない。

逆に民主党としては、ジンクス通り南部出身のクラーク（アーカンソー州）の動向が鍵といえるだろう。投票日まで残り1年。いくつものドラマが待っていそうだ。

⁴ 映画上の役柄とはエライ違いである。

<今週の”The Economist”誌から>

”About those election promises”
「シュワちゃんの公約」

United States
P.35-36

* シュワルツネッガー新カリフォルニア州知事の仕事はどうなるのでしょうか。意地の悪い”The Economist”誌に聞いてみましょう。

<要旨>

上々の出だしである。ブッシュはアジア行き途中で次期共和党知事を訪問した。州の検事総長も400万の州民同様、映画スターに投票したという。政権移行のために選んだ超党派メンバーへの評価は高い。初選挙を勝った後としては悪くない。こんなハネムーンがいつまで続くか。シュワルツネッガーは11月末に哀れなデービスの職を継承する。12月には予算案を印刷にかけ、1月10日の州会議に提出する。政治的、算術的に成立するかどうか。

公約は、自動車登録税の撤回、労災や失業への保険料高騰の見直し、企業課税や規制の簡素化、公共教育の改善、水素燃料車による環境保護などだ。ただし共和党らしく、すべて増税ナシで。現実はどうか。民主党が上下州議会を押さえ、州の財政赤字は80億ドルで、州債が憲法違反ならさらに倍となり、自動車税を撤回するとさらに40億ドルの穴があく。

ここにブッシュによる訪問の重要性がある。知事が大統領を説得できれば、帳簿は合う。しかし連邦政府の財政事情を思えば、無理な相談だろう。それでも言い訳にはなる。カリフォルニア州は、連邦に納入する1ドル当たり76セントしか戻らない(ワシントンDCは6.44ドル!)。もっとも連邦政府に責任転嫁するのも妙な話である。州に子供の保護を求める家族支援法を守っていないための罰則金など、加州の自業自得の部分が多いのだ。

それでも2004年の大統領選挙を考えれば、ブッシュの助けはありそうだ。シュワルツネッガーが指名した独立監査チームが剰余金を見つけてくれるかもしれない。そして彼の個性と説得力をもってすれば、州議会を促して予算をまとめられるという楽観論もある。

果たしてそうだろうか? 次期知事は民主党に話がつけられる。政権移行チームには、HP社長やジョージ・シュルツ、ウィルソン前知事などの重鎮が揃う。民主党の有力者であるサンフランシスコの黒人市長も入っている。ポピュリストとしての影響力を駆使し、州の支出を減らせば共和党のタカ派も満足しよう。住民投票で州債問題に支持を得れば、支出は守られて民主党が喜ぶ。支出をインフレ率内に収め、金を借りれば予算は均衡する。

だが楽観論は幻滅に行き当たる。州債問題を住民投票にかけるには3月まで待たねばならない。その間に裁判所が、今借りている130億ドルは違法だと判決を下すかもしれない。

次期知事は同州の難問である、スーパーチェーンでのストライキ現場を視察した。労働者は医療福利が失われると言い、経営者側はもっと働け、来年2月には(もっとケチな)ウォルマートが来るぞと脅す。その頃にはシュワ知事は、映画界を恋しく思うかもしれない。

< From the Editor > デービス知事の反撃

青白い弱そうなタイプが、筋肉隆々の男をぶちのめすのは、映画の中でしかありえないことかもしれません。痩せて顔色の悪い、その名も「灰色」(Gray)デービス知事が、筋肉マンの映画スターに退治されるという筋書きは、二重三重に良くできたドラマでした。

ところがデービス知事もさるもので、リコール直後に深夜番組のDavid Letterman Showに出演して敗北宣言をするとともに、「シュワルツネッガー新知事に贈る10のアドバイス」を表明しました。なんとなればシュワちゃんが出馬表明したのは、CBSのLettermanとはライバル関係にある、NBSのJay Leno Showだったのです。

Davis offers 10 pieces of advice to Schwarzenegger

The list:

10. Governor, when you realize you don't know what you're doing, give me a call.
9. Body-building oil will stain the mansion's Italian silk sofa.
8. Listen to your constituents -- except Michael Jackson.
7. (Sorry, joke number 7 was recalled.)
6. To improve your approval ratings, go on Leno - when you get kicked out, go on Letterman.
5. Study the master -- George W. Bush.
4. You could solve the deficit problem simply by donating your salary from 'Terminator 3.'
3. If things are bad, just yell, 'Save us, Superman!'
2. While giving a speech, never say, "Santa Cruz, Santa Barbara ... same thing."
1. It's pronounced "California."

あまりにも見事な最後っ屁。デービス知事は、在任の最後に記録的な山火事に遭うなど、不運は尽きないようですが、今後のご多幸を祈りたい気がします。

編集者敬白

本レポートの内容は担当者個人の見解に基づいており、日商岩井株式会社および株式会社日商岩井総合研究所の見解を示すものではありません。ご要望、問い合わせ等は下記までお願いします。

〒135-8655 東京都港区台場 2-3-1 <http://www.niri.co.jp>

日商岩井総合研究所 吉崎達彦 TEL: (03)5520-2195 FAX: (03)5520-2183

E-MAIL: yoshizaki.tatsuhiko@nisshoiwai.com